

総合科学部30歳

— 今新たな旅立ちの時 —



堀越 孝雄

総合科学部長
 自然環境科学講座・教授
 専門分野：生態系微生物学、
 菌根の生態学

広島大学総合科学部は、1974年、「総合科学を冠した学部としてはわが国で初めて創設された。創設時すべての講座が博士講座として予算措置され、また教官定員も70名弱純増するなど異例の扱いであり、学部創設にかけた先輩教職員の熱い思いと文部省の期待がうかがわれる。

その後、旧教養部等を改組した新構想学部も次々と誕生したが、わが総合科学部は、新構想学部の先駆けとして、すでに4,000名を超える卒業生と関連大学院の修了生を輩出し、これらの卒修了生は社会のさまざまな分野で活躍している。特に、マスコミや博物館の関係、シンクタンク、国や地方自治体などにおける活躍がめざましい。学界を見ても、たとえば総合科学部にはすでに十数名の卒修了生が教官として活躍している。

30年を総合科学部の教育体制の面から振り返ると、広島大学の教養教育は全学で責任を持ちつつ総合科学部が主担当するという「広島大学方式」をとっているが、教養教育における総合科学部の存在と体制は、大学評価・学位授与機構によって「特色ある取り組み」と高く評価されている（2003年）。また、学部専門教育についても、総合科学部は、2000年4月、全学に先駆けて教育プログラム制を導入し、目標設定と評価にもとづく到達目標達成型のカリキュラムの実現をめざしている。

研究面についてみると、広島大学で4番目に学士院賞を受賞した（1980年）初代学部長今堀誠二先生の「中国封建社会の構造」は地域研究における金字塔である。また、中国文化賞については、本学部関係で6名の先生方が受賞しておられ、最近では藤井博信先生（2000）の「水素吸蔵材料の物性研究」に関する受賞が記憶に新しい。さらに、4名の先生方がサントリー学芸賞を受賞されており、最近では、加藤徹先生（2002）が「京劇」の出版で受賞されている。これらの研究業績は、他学部とは一味異なる総合科学部ならではのものである。さらに、地域科学、文化人類学、人間科学、行動科学、脳科学、物質科学、環境科学などの分野は商業雑誌な

ども紹介され、わが国の学界をリードするものである。

2001年3月に閣議決定された「科学技術基本計画」の基本理念は「科学技術が社会に与える影響を解析、評価し、対応していく新しい科学技術の領域を拓いていく必要がある。このためには、自然科学のみならず人文・社会科学を総合した人類の英知が求められている」とある。学部創設にあたり設置趣意書（1983年）に謳われた「細分化された諸科学を人間的視野から総合すること」は、今日ますます光輝かなければならないのである。

創設30年の節目の年に当たり、総合科学部の歩んできた道を検証し、改めるべきところは改め、誇るべきところは誇り、使命の大きさと重さを認識し、今後も「総合科学」の旗を掲げ志し高く前進したいと強く思うものである。